

背景・課題

- 海洋データの取得技術等はこれまでの技術開発により着実に進展し、環境情報を含め、海洋生態系を取りまく膨大なデータが蓄積。
- 一方で、特定の観測目的で集められた断片的なデータを分野横断的に活用し新しい価値を見出す研究は世界的に見てもこれからの分野で、「海洋生態系×AI」「海洋生態系×データサイエンス」による付加価値創造は我が国が世界をリードし得る研究課題。
- **海洋生物・情報科学研究者の分野横断的研究チーム**により、**データ連携・統合解析技術の確立等を進め、ビッグデータから新たな知見を見出す**とともに、多岐にわたる**社会実装例を創出し**、海洋生物ビッグデータを活用して課題解決を図る社会の構築を目指す。

事業内容

1. 海洋生物多様性ビッグデータ汎用化の基盤技術と海の豊かさを守る応用技術の開発

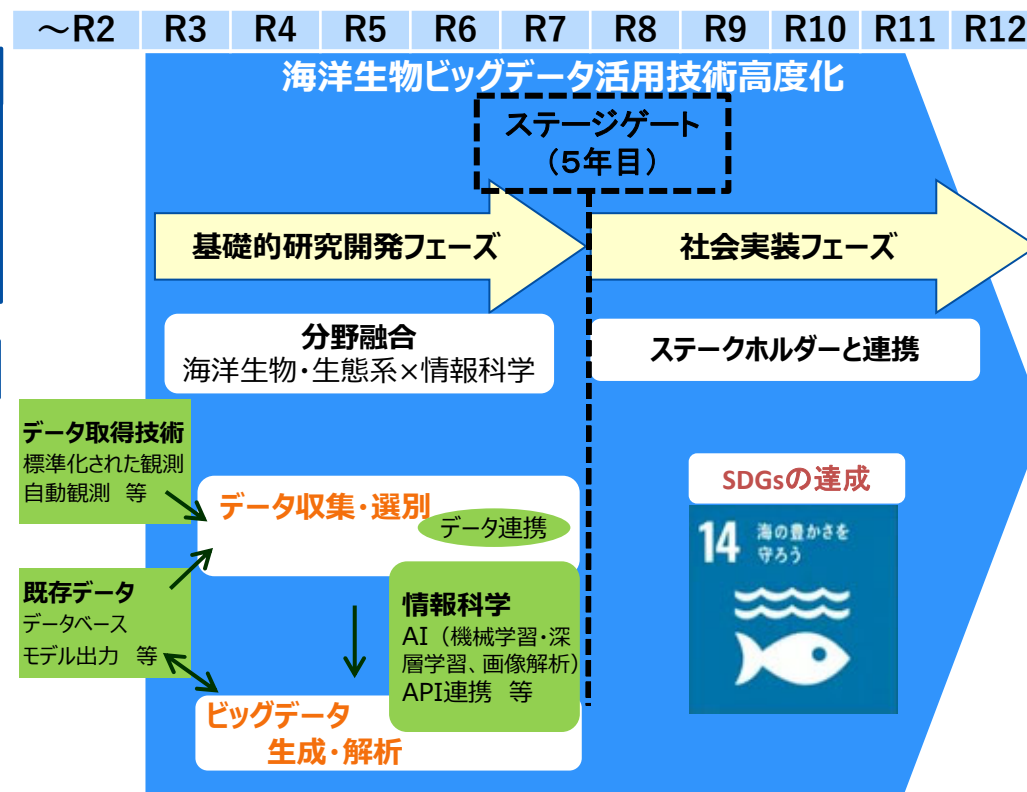
- 中核機関、研究代表者 琉球大学、久保田康裕
- 実施内容
 - ① 種々のデータを統合し、**海洋生物多様性ビッグデータの基盤となるプラットフォームを構築**
 - ② 海洋保護区の最適な配置や海洋生態系の劣化リスク等の**分析技術を開発**
 - ③ **海の豊かさの脅威に係る評価監視システムを構築**し、政策決定の根拠となるデータを提供

2. イベントベースビジョンセンサー（EVS）を用いた海洋粒子ビッグデータ生成

- 中核機関、研究代表者 ソニーコンピュータサイエンス研究所、高塚進
- 実施内容
 - ① プラクトンや粒子態有機物などの海洋粒子データを収集・解析する**クラウド開発**
 - ② 観測展開による長期・広域・高時空間分解能な海洋粒子データの取得と解析技術開発
 - ③ 水産資源量の変動・予測情報を発表

3. バイオロギングで実現する海洋生物と人の持続可能な共生社会

- 中核機関、研究代表者 東京大学、佐藤克文
- 実施内容
 - ① バイオロギングデータ利用の基盤となる**インテリジェントプラットフォームを構築**
 - ② データの**リアルタイム配信**について検証を実施、データの利便性を高める
 - ③ 気象庁物理モデル等へ洋上等のデータを提供し、**日々の予報や防災情報の高精度化**



「海洋生物ビッグデータ活用技術高度化」に関するシンポジウム

目的

2025年は「国連海洋科学の10年」の中間年にあたることも踏まえ、「国連海洋科学の10年」と関係も深い、「海洋生物ビッグデータ活用技術高度化」プログラムの各採択課題におけるこれまでの成果や今後の展望について国内外に広く知っていただく。

概要

- 日時：2025年10月31日（金）
- 場所：国連大学（渋谷駅から徒歩10分。地下鉄表参道駅から徒歩5分。）
- 登壇予定者：本事業研究代表者、関連分野の海外研究者、IOC道田議長他
- 参加者：200名～300名程度を想定（参加費：無料を予定）
※対面開催を予定。シンポジウム終了後、録画をHPなどで掲載を予定



内容

①講演

- ・題目：「国連海洋科学の10年に関する調査内容や最新の研究動向について」
講演者：国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター（CRDS） 20分程度
- ・題目：「各課題の研究紹介・今後の構想について」
講演者：本事業研究代表者 各25分×3程度
- ・題目：「各課題に関連する世界的な動向と各課題への期待」
講演者：関連分野の海外研究者 各25分×3程度



②パネルディスカッション（1時間）

- ・題目：「講演を受けた海洋生物ビッグデータ活用の今後の方向性について」
モデレーター：赤松プログラムディレクター（早稲田大学）
パネリスト：関連分野の海外研究者3名、IOC道田議長、文部科学省海洋地球課長



このほか、会合後にレセプションも予定。また、各事業などの研究等に関するポスターをコーヒープレイク会場などに掲示予定。
※いずれも、時間構成や題目等は現時点のものであり、変更の可能性があります。